

＝夫まがゆ才5



昭和63年7月20日
木 武 一
川第五出張所
700-8132

第 14 号
行 任 者

お地蔵さま

多摩川の上流から筏を流
してきた筏師たちが、野毛
の岸へ流れがゆるやかに
るので碇の役をしていたこ
で材木を引き渡し、愛用の
筏竿をかついで、やれやれ
と無事を祝つて泊つたのが
大山街道と筏道の交差点に
あった宿や、地蔵屋のよ
うです。

相模の国から江戸に上る
ので江戸道とも呼ばれてい
ましたが、往来はかなりあ
ったようです。この地藏屋
さんの樹の木の下にお地藏
さまが祀られ、道中の無事
を祈って、人々の信仰を築
めていました。

現在は、〃舊蔵屋〃とい
う、酒屋さんになっていま
す。

このお地蔵さんは、今
二子玉川遊園地の中に祀ら
れています。

さて、お地蔵さんは歴史の流れを、どのように見ているのでしょうか。(池田)



大道元和中塔

昭和39年に現在の用賀消防署の所に庚申塔がありま
した。このあたりを向とい
い、二十数軒がらなる講中
が地域の守神として信仰し
ていました。年に一回庚申
様の掛軸が廻つて来て宿に
なつた家ではご馳走を供え
て家族のしあわせと健康長
寿を祈り、翌日隣へ持つて
行きました。土地によつて
違いはあつたでしょうが家
がまばらな昔の事ですから
この様な素朴な行事を通し
て交流を保つていたのでは
ないでしょうか。？。

今は講中も解散して庚申
塔は真福寺の山門を入った
左側にあります。(高橋澄

消え去

明治維新を迎えた新政府は、明治6年徴兵令を発し陸海二軍を備える事になる。徴兵対象者は20才以上の男子・一家の主や長男・身長五尺一寸以下の者等は除外され、結果的に農家の二・三男や体格の大きな者

より賀西南の役参戦

が徴兵された。そして明治10年の西南の役には政府軍5万一千余りのうち、4万2千人はこうして徴兵された兵卒が従軍した。

世田谷地域より西南の役
に参戦した人の正確な記録
は無いが、今、用賀神社庫
内の古い石碑に、西南の役
戦死者、柳田爲吉、参戦者
鎌田三次郎、という二人
の名を、讀みとろことが
できる。

(飯田)

瀬田より目アメリカ村の裏手に「お竹蔵さま」があります。

明和の初め、このあたり
に疫病かはやり、村人達は
困りはて「お伊蔵さまに
祈り、お念仏を唱え、救済
と冥途を祈ったも
の」と思います。

仏様に「はつ百万遍」
 供養仏、明和3年
 (1766年)と刻
 まれており、後に
 天明大飢饉の犠牲
 者も、共に供養さ
 れたと聞いております。

蔵地のお地蔵

瀬田、お地蔵さま

現在でも天明3年と印
された鉦かねをならし、春秋の
お彼岸に念仏講が開かれて
います。又、是より左、府
中道、右、高井戸道と
みちしるべの役もしていま
した。(大坪)

歴史文化
堀りあきこ

上戸買6、4、22ぎわに
鳥居と松に覆われた小さな
お社があります。

その昔、農家の人々が防
災、防火、防虫、盗賊よけ
等、自然災害や家内安全を

三峯神社・地藏蔵

願う守護神として
秩父の三峯神社を
信仰し講中を起し
て祀ったとされて
います。今でも16
軒の講中が代参人
を仕立てお礼を頂
き「お日侍講」として
太陽を崇め奉る行事が引き
継がれています。又河の奥
のお地藏様は宝暦六丙子年
十月吉日と刻まれた台座の
周囲には、おかめ、おみね
等の女性の名が刻んであり
ます。

(柳田)

地蔵尊ゆかり由縁ふし

鈴木武

追分みちや 交又点
昔なつかし宿場まち
瀬田や用賀の村さかい
事件の跡や道端に
黙って立つ一河百年

みんなの都合で名付けられ
地蔵菩薩と言われたり
子^こ育^{そだ}地蔵と呼ばれたり
魔除^{まじく}厄除^{やくじく} やまい除け
道^{みち}禰^ねやら守りやら
よう丁^{てい}頼^ねいやお誓^{いそ}いと

みんなまこめて請合つて
若衆たちのたまり場で
出せの児らの別れみち
無事と平穩いのりつゝ
見つゝ行きまじつまでも
更名高速入り口で

今は跡かた無いけれど
侍家の夢のあと

金銀財宝　ヤリ　かたな
お骨コツも一緒に埋まってた
大塚山と鹽シホわれて

発掘調査もされました
さてその次は246
用貨二丁目交叉点

下水事務所の裏あたり
上人塚ミウツミダケがありました
法教上人と申します

なせかなんだか解らねど
百日咳にききめあり
癒ったお乳に甘酒を
青竹筒に汲み入れて
捧げなさいとお告げあり

冬から春の朝早く
ヒソリ厭上してありました

昭和の初め移されて
赤門入った真福寺

お祀りされて六十坪
噂も何も忘られて
ひっそり。ホツリ

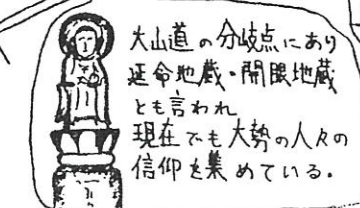
うつむいて
松の根方に建ってます



“ひろば”ご希望の方は 玉川第五出張所においてありますので どうぞ

覽回

願い事が秘められている



大山道の分岐点にあり
延命地藏・開眼地藏
とも言われ
現在でも大勢の人々の
信仰を集めている。

作図・鈴木

本号は、わが町の歴史散歩。
この機会に現在の編集スタッフ
を改めて紹介します。

委員長は地域の文化の泉、店主
鈴木武一(彌頭)シリーズ郷土紹
介は飯田恭次(註彌頭)マツパ作成
にその実刀發揮の鈴木堅之(註彌頭)
細やかな女性感覚で取材記事担
当の大井智恵子(註彌頭)と高橋澄
子(彌頭)環境問題、青少年問題に
ついて各々一家言を掲げ、柳田文
雄(註彌頭)池田良夫(註彌頭)そして肇
和、レイアウトとよろず承りの
折原淳子(註彌頭)が担当します。

事務局は玉川第五出張所の
滝沢主登です。

……一同、皆様の声を
お待ちしております……



同・皆様の声を
お待ちしております……